

西表島の絶滅危惧種のヒルギモドキについて（第2報）

西表森林環境保全ふれあいセンター 自然再生指導官 野邊忠司

1 はじめに

ヒルギモドキは、熱帯及び亜熱帯のマングローブに生える常緑の小高木で、高さ10 mに達します。日本では、沖縄県（沖縄本島、久米島、石垣島、小浜島、西表島）のみに自生し、沖縄本島が分布域の北限となっています。沖縄県では、樹高4 m程度の個体が多く、マングローブ植物の中では陸化した湿地に生育しています。埋め立てや開発によって自生地が消失したり、潮流の変化等によって生育環境が悪化し自生地や個体数が急減しており、環境省のレッドデータブックの中で、ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種である絶滅危惧ⅠA類（CR）に分類されています。

西表森林環境保全ふれあいセンターでは西表島のヒルギモドキ生育状況について調査を行ってきており第1報では、陸路でのアクセスが可能な地域について報告したところですが、今回は陸路でのアクセスが困難な西表島西部地域について備船して調査を行いましたので、その結果を報告します。

2 生育地の概況

1) ユナラ川

所在地

沖縄県八重山郡竹富町字西表国有林
162い林小班

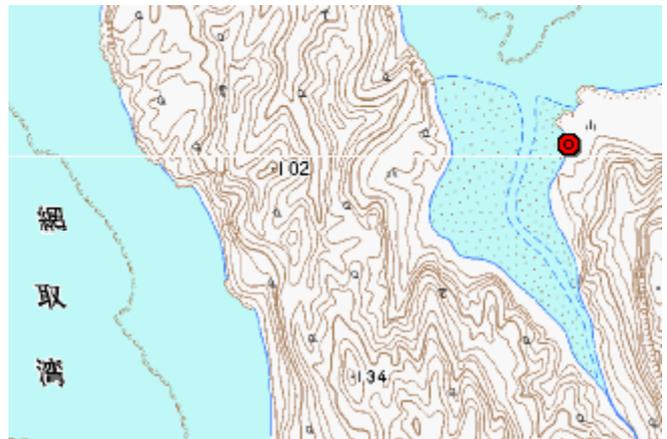
位置図は右記を参照

平均樹高、平均胸高直径

3 m、5 cm

周辺状況

舟浮集落とサバ崎の間にある入江に3本生育しています。周囲には、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、メヒルギ、シマシラキ、ヒルギダマシ（絶滅危惧ⅠB類）が生育しています。



2) 内離島

所在地

沖縄県八重山郡竹富町内離島の私有地

位置図は右記を参照

平均樹高、平均胸高直径

2 m、4 cm

周辺状況



内離島北部の私有地に数十本生育しています。周囲には、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、メヒルギ、シマシラキ、ヒルギダマシ（絶滅危惧 IB 類）、ニッパヤシ（絶滅危惧類）が生育しています。

3 ヒルギモドキの保護に当たっての留意事項

1) ユナラ川

水源涵養保安林に指定されており、本地域が開発される可能性も少ないことから現存のまま手を加えずに定期的にモニタリングすることが必要です。

2) 内離島

以前、放牧が行われた跡地にマングローブ 6 種が生育しており、絶滅危惧 IA 類のヒルギモドキ、絶滅危惧 IB 類のヒルギダマシ及び日本では 2 箇所でしか生育していない絶滅危惧類のニッパヤシなどの希少な植物が生育していることから、何らかの法律で保護を検討することが必要です。

第 1 報については、以下のホームページにアクセスしてください。

<http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/pdf/katudou8.pdf>

参考資料

ヒルギモドキについて

- 1 和名 ヒルギモドキ
- 2 学名 *Lumnitzera racemosa*
- 3 科及び属 シクンシ科ヒルギモドキ属
- 4 特徴 根：他のマングローブとは違い地上に根を出しません。
幹：幹は褐色でざらついています。
葉：葉は、小さく互生し光沢があり、卵形で先がくぼんでいます。
花：花弁は5枚で、小さくて白い花をつけます。
実：実は緑色で、長楕円形をしています。



幹



葉



花



実

